

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(社会学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2~4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>

主履修分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			
21101	グローバル化時代の人間科学	・グローバル化のプロセスがもつ意味を理解する。 ・グローバル化の影響を理解する。 ・人間科学の諸分野の学問的方法や固有の領域について理解する。	2		*					◎
21102	社会学概論A	・社会科学としての社会学の特徴を理解する。 ・社会学の基礎理論を学ぶ。 ・社会学の対象と方法について、基礎的知識を持つ。 ・社会学の今日的課題に関心を持つ。	1	*	*					◎
41101	社会学概論B	・社会調査の目的と歴史、社会調査の倫理について学ぶ。 ・さまざまな社会調査の種類とそれぞれの方法が持つ長所と問題点を理解する。 ・質問紙調査を中心に、社会調査の設計から実施、収集したデータの分析までの流れを学ぶ。 ・自分の目的にあった種類の社会調査を選択し、調査の企画・計画を立案できるようにする。	2	*	*					◎
41102	社会統計学1	・記述統計の技法を学ぶ。 ・推測統計の考え方を学ぶ。 ・社会調査データの基礎的な分析法を身につける。	2	*	*				○	○
41103	社会統計学2	・多変量解析(特に重回帰分析)の方法を学ぶ。 ・変数間の関連性の指標について理解する。 ・社会調査データの分析法を身につける。	2,3	*	*				○	○
41104	社会学調査法	・社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を理解する。 ・サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法を理解する。	2,3			*	*		○	○
41135	理論社会学1	・社会学理論の基礎概念を理解する。 ・古典的 sociology 理論の形成から、現代的 sociology 理論の展開までを俯瞰的に理解する。	2,3	*					○	○
41136	理論社会学2	・社会学理論の基礎概念を理解する。 ・古典的 sociology 理論の形成から、現代的 sociology 理論の展開までを俯瞰的に理解する。 ・欧米圏を含めた理論社会学の成果を学ぶ。	2,3		*				○	○
41137	経験社会学1	・日本社会における格差と不平等についてデータに基づいて理解できるようになる。 ・公的統計を取り扱う方法を身につける。	2,3						○	
41138	経験社会学2	・日本社会における格差と不平等について、働き方の格差という視点からデータに基づいて理解できるようになる。 ・社会学で用いられる統計データやフィールドワーク論文の基本的な読み解き方を身につける。	2,3						○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(社会学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2~4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
41109	応用社会学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研究と応用研究の区別を理解する。 ・基礎研究を応用して、社会現象の予測に役立てる方法を学ぶ。 ・応用社会学的観点に立って、社会問題について議論を行えるようになる。 	2,3	*	*					○			
41110	社会理論	<ul style="list-style-type: none"> ・社会現象の因果的説明の方法を学ぶ。 ・社会理論の文献を読めるようになる。 ・社会理論における諸問題に関する議論が行えるようになる。 	2,3			*	*			○			
41132	社会情報学	<ul style="list-style-type: none"> ・人間行動や社会集団の変化を、社会情報という視点によって把握する方法を学ぶ。 ・これまでの社会変動研究の成果を学ぶ。 ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを理解する。 ・社会変動を予測し、その影響を複数の視点から考察・評価できるようになる。 	2,3	*		*				○			
41139	福祉国家論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・規範的社会理論を構築するうえで不可欠な自由、平等、公正といった理念について理解を深める。 ・福祉国家の歴史的發展を学ぶことを通じて、福祉国家の理念と基本的な価値について理解を深める。 	2~4							○			
41140	福祉国家論Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的制度としての福祉国家の現状について分析し、その諸問題を構造的に理解する。 ・現代の福祉国家が抱えている諸問題を、構造的に理解する。 ・今後の福祉国家のあるべき姿について、自分なりに考察を展開する。 	2~4							○			
41141	公共社会学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・公共性の概念について理解を深める。 ・公正な社会とは何かについて考える。 ・システム理論の系譜について学び、社会をシステムとして捉える意味について理解する。 ・社会計画の理念と思想について理解する。 	2~4							○			
41142	公共社会学Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における社会計画の歴史を概観しながら、社会計画のさまざまな対象と方法について理解する。 ・現代社会における計画の立案・実施・評価という社会計画の実践についての基本的知識を身につける。 ・社会計画の限界や今日の問題についての認識を深める。 	2~4							○			

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(社会学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2~4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4					
41143	福祉社会学Ⅰ	・福祉を社会的に分析するための基本的な視点を身につけ、地域における共生の理念と施策の展開を構想できるようになる。 ・現代社会における社会的排除のメカニズムとその解決のあるべき方向性を理解する。 ・事前学習した知識やデータをふまえてディスカッションやグループワークに取り組み、自他の意見を理解しながら思考を深めていく姿勢を身につける。	2~4					○		○		
41144	福祉社会学Ⅱ	・福祉を社会的に分析するための基本的な視点を身につけ、地域における共生の理念と施策の展開を構想できるようになる。 ・現代社会における家族とケアの課題を理解する。 ・事前学習した知識やデータをふまえてディスカッションやグループワークに取り組み、自他の意見を理解しながら思考を深めていく姿勢を身につける。	2~4					○		○		
41145	医療社会学Ⅰ	・医療を社会的に分析するための基本的な考え方を身につけることで、現代医療における課題を見出し考察できるようになる。 ・事前学習した知識やデータをふまえてディスカッションやグループワークに取り組み、多様な視点を整理し主体的に学ぶ姿勢を身につける。	2~4					○		○		
41146	医療社会学Ⅱ	・現代医療をとりまく環境の変化について、社会変動や技術の進歩、価値観の変化といった視点から学習し、あるべき方向性を考える力を身につける。 ・事前学習した知識やデータをふまえてディスカッションやグループワークに取り組み、多様な視点を整理し主体的に学ぶ姿勢を身につける。	2~4					○		○		
41128	地域社会学	地域コミュニティの実態について、近代から現代にいたる内外の地域社会学理論の学習をとおして、自分自身の身近な問題として考え、地域コミュニティに生きる生活主体としての視点を養う。	2,3			*	*	○				
41129	社会調査基礎演習	・社会的な見方、思考と、我々がすでにもっている常識とを明確に区別できるようになる。 ・社会現象についての常識的な見方に対して、社会的な見方を対置できるようになる。 ・プレゼンテーションの方法を学び、発表・発言することに積極的な態度を身につける。	2	*						○	○	◎
41147	経験社会学演習	・社会調査データの収集法、統計的分析の方法を学び、自らの社会的な研究課題を探究するための方法的な基礎を確立する。 ・現代社会の課題にむすびついた研究課題を設定し、既存の研究成果を収集・検討できるようになる。 ・研究のプロセスや成果について、適切に報告できるようになる。	2,3			*		○		○		

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(社会学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用実習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2~4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4							
41148	社会調査発展演習1	・中規模な社会調査を実際に行うチームの一員として作業ができる能力を獲得し、経験を積む。 ・先行研究の調査、仮説構成、質問文の作成、調査票の作成などについて、チームで行うためのスキルを獲得する。	3	*					○	◎	◎	○	◎	◎
41149	社会調査発展演習2	・中規模な社会調査を実際に行うチームの一員として作業ができる能力を獲得し、経験を積む。 ・調査票の作成、データの取り扱いや、調査対象者などの外部の人々との接し方について、高い専門的なセンスを身につける。	3		*				○	◎	◎	○	◎	◎
41150	社会調査発展演習3	・実査を行うチームの一員としての経験を積む。 ・データ分析、プレゼンテーション、調査対象者へのお礼と調査から得られた知見の社会的な還元、報告書の作成まで、着実に作業を遂行する能力を獲得し、経験を積む。	3			*			○	◎	◎	○	◎	◎
41151	社会調査発展演習4	・実査を行うチームの一員としての経験を積む。 ・実習のまとめとして、各自レポートを作成し、報告書をまとめる。 ・失敗学的観点の応用を習慣化する。	3				*		○	◎	◎	○	◎	◎
41116	理論社会学演習A	・理論社会学の入門レベルの知識、思考力を獲得する。 ・理論社会的な思考と現実の社会的出来事とがどのように関連しているか、理解する。	2,3			*	*		○		◎			
41117	理論社会学演習B	・社会学の理論的観点から、社会現象を説明するスキルを獲得する。 ・社会学の理論的諸問題について、協働して、文献を読み、討論することができるようになる。 ・社会学理論の可能性と限界について、明晰な思考ができるようになる。	2~4			*	*		○		◎			◎
41133	社会情報学演習A	・社会情報学の入門レベルの知識、思考力を獲得する。 ・社会変動に関する文献データの探し方、読み方、データから情報を引き出し解釈する方法を学ぶ。	2~4	*	*	*	*		○		○			
41134	社会情報学演習B	・社会情報学の観点から、社会現象を説明するスキルを獲得する。 ・先行研究の批判的検討、新たな概念化、データによる検証といった実証研究の方法を学ぶ。 ・外的な要因の変化による社会変動の予測について、その可能性と限界を論理的に議論できるようになる。	2~4	*	*	*	*		○		○			
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*					◎				

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(社会学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用実習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2~4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>	<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多元的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>

主履修分野のカリキュラム									
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4		
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4			*	*		◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*		◎
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)		○	○
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)		○	○
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*		○	○
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*		○	
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*				○	◎
11062	学類共通英語B	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*			○	◎

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。